活動を容易ならしめるために、交通機關のこみあふ場合の外出に、寒さ暑さの時季の買ひ物に、勤勞奉仕の出勤に、防空演習に、若き母としての教養に、出來るなら國民皆動のために、隣組の協力に依つて乳幼兒を集めて、生産に從事するには不適當であるが、乳幼兒の面倒は見ることが出來ると云ふ、例へば妊婦の如き者があればかうした方に隣組保育擔任者になつて頂くと好いと思ふ、かうした保育擔任者に對する簡易保育の方法は既設の幼稚園託兒所の保姆の任務として考へられるのである。以上は今後都市の幼稚園の行くべき道の一端として考へたことである。

戰時託兒所と母性指導

東京市健民局母子課　植山友律子

「お母さんさよなら」と紅葉の樣な手を振る子供と別れる母の胸には熱いものが流れる。此の母達が繁雜な事務所又は電力の響く工場や家庭內の職場に於て作業中

「早乙女や泣く子の方へ植ゑて行く」（乘捨）與づけてきた子供を心配し初めたら一日の仕事は失敗し危險を引き起すかも知れぬ。夕方母が迎へに現はれた時「お母さん」と飛び込む吾子を抱き歸へる有樣

「子を思ふ母の心を美しさばかりは言はじ私に滿つ」

と心にくゝも歌つた程母と子の一つになつて行く姿こそ尊く淸く感ずるものはない。かうした母が今や日本國中一杯に擴がつて行く卽ち嘗つてありし如く男子の生活費の不足を補ふための勞働や社會事業的性格を持つた爲ではない。それは急速度に國家の要請に因つて母の生活が變化してきたのだ。原始の時代から常に明き淨き直き誠の心を心として如何なる難澁の生活にも堪へ、嶮難な途をふみこえて働き通して來た過去の女性の幾多の足跡を見るとき婦人が關與し婦人によつてなし遂げられなかつたものは無いのである。殊にいつの時代にも本質的婦人の使命を自覺し母性としての任務をなした光榮ある生活の歷史を常に繰りかへしつゞけて來たので有つた。併しながら大東亞戰爭は國家と國民生活に勞務動員をよぎなくし軍需生産力の强化と民需生産力を追ひ立てゝ家にある婦人をして生産部面の前

線に婦人が立つてゐるのである、此の時國民生活の基調たる家庭内の勤勞卽ちこれが缺けたとき國民的性格を造り上げる國民的仕事、母性の特質的勞働の減少に見逃がすことが出來ない問題が起つてきた。故に「國民の將來は母性にあり」と云はれたる母性の使命に缺如すべき要因となるものがあるならば、その對策こそ緊急を要するものでそれは母性自身の問題と母性として家を齊へ子女を育成するといふ國家的任務を遂行せしめるものに他ならない。而して母は自己を滅して家族のため犧牲になるのであるが、例へば厚生省の調査によれば一家に於て榮養不足徵候の最初に現はれる者はその家の妻であり次ぎは年頃の女子、夫、青年、老人、最後は幼兒となつてゐる。これを見ても日本の家族制度に流れてゐる母の態度、犧牲を家族のため悅びとしてゐる母の强さ尊さがあるが一面體位の低下や生產部面の過勞が身心共に起り母性にかゝはる乳幼兒にその結果が現はれることが豫想されるのである。今此處に例を引かなくとも明らかなことにてその結果をみて其の對策をすることはもう遲いのであるが現實に於いても不健康になりたる母性、亦子供にしてもこの母の惱みは子供の取りかへされなき大いなる惱みであり夫の勞苦である、卽ち國家的運命を支配する喫緊なるものであると考へる。此の母の惱みを卽ち母性の特質的勞働を補ふための施設こそ國家理想を目指してゐるものでそれは勤勞者のための託兒所である。丁度事變突發と同時に婦人團體聯盟によつて託兒所增設運動を行つたことがあつたがその歷史的過程において現在はもつと强い增設運動が母性の使命に生產的性格を附與して叫ばれてきたことは明らかである。亦農繁期に於ける季節託兒所が夥しく增設したことも以下の數にて明らかなことである。

季節託兒所	昭和十三年八月	一、四九五
	昭和九年	九六五
	昭和五年	四八二
	昭和三年	三一二
常設託兒所	昭和十五年	一七、七〇〇
	昭和十四年	一六、二六三
	昭和十三年	一三、〇九九
	昭和十二年	九三一五

東京市に於ては此の五月より戰時託兒所を百ヶ所新設する計畫にて從來の方面館附設四十五所を共に戰時託兒所として擴充した。而してその目的は乳幼兒に對し皇國民たる資質の向上を圖ると共に市民皆働に依る戰時生產の增强に資するを以て目的とするものでその訓育が家庭教育を補ふと共にその戰時生活の徹底に資し一人の有閑者をも作らしめない樣にする能動性をもつ故に健民强兵をつくり生產部

面に挺身する推進所となるべき機能を有するのである。此の點幼稚園と託兒所がそれ自體目的を異にしてゐると云へよう。亦可急的新設するため神社、寺院、空地、一般邸宅等を借入れ間に合ふ建物をそのまゝ使ふことゝ、備品等も何るべく生かし不用の家庭より供出してもらひ保育擔當者は專門の指導者と勤勞奉仕者によつてなされる。かうした中の託兒は醫者と保健婦により身體の向上と健康的な躾が出來、性格は快活になりそれにともなひ獨立心と勇氣が起り共同生活の訓練は幼兒のうちに國民的性格を陶冶するのである。亦その結果交通事故や火、水害の危險な事故を起すことも少なく豫防衛生による健康は母の勤勞を妨げることなく信頼して託することが出來る。この託兒所の目的の一面たる母性指導は乳幼兒の保育方針と家庭教育を同じくする爲母性はその教育方法を知らなければならないし勤勞において錬へられた精神に子を通じて教へられる皇國女性の使命も、生活技術の修練も全べて戰爭目的遂行のため實踐化する樣にその自覺を與へることが大切である。又この母性を家事、育兒、勤勞の疲れより放ち自然に接觸し良き休養と保護を與へることは身心よりみて必要なことであり同時に生活の體驗をなす爲互の切磋琢磨の氣構へなさしめる爲の母の會が必要で母性指導事業の推進の中心である。かくて母性指導をなすに考へられることはいま婦人に國家的要請せられてゐる勤勞强化と他面、母たることに對する婦人自らと國民全體からの本能的な要請とされてゐる。この二つの事實こそ明日の精神を備へるべき本事業の要諦であらうと思ふ。この理念のもとに母の生活勤勞と家庭狀態の調査による保護が最も必要にて常に母の勤勞の適正卽ち妊娠期間、授乳期間中の保健衛生こそ國力の基をこしらへるものであるし、亦衣食住に對する生活の合理化と勤勞家庭に對する隣保扶助の協同方法などが考へられ亦生活意欲が湧いて來る樣な生活文化運動などが働くものに益々必要になつて來る。東京市は此の働く母のためその心の生活をうるほし、これを豐かにし心の中に生活のものになる歌がほしいと希つてゐたところ此度働く母の歌を選定したので（御參考までに後記して置く）贈りたいと思つてゐる。これは少さい一つの事にすぎないが今日まで勤勞層は多くの點に於て、文化的教養に惠まれてゐないのであるがもつと我が國民のもつてゐる最高の文化に生活をふれしめその生活を培ふことは自らの生活にあるその技術的、生產的向上を來たした人がうたつた憂國の詩、熱情ほとばしる萬葉古今の歌が働く民族の母より生れ出ることこそ民族精神の昂揚である。私は音樂をもち詩を歌をもつと生活に滲透せしめる事が勤勞と民族發展のための必須の手段であると思ふ又母性指導事業の一方法だと確信することは日本の母の國民

性に適してゐることを多くの歴史が示してゐるからだ。かくして託兒所の母の會員の良き補導者となるものは東京市が任命してゐる二萬餘人の母性補導員であることを附記しておく、この委員は母性及び乳幼兒の指導に奉仕して下さる方で赤ちやん隣組の組長さんで一人も受持區域より死亡者を出さないこと、立派な赤兒をたくさん生むため母性を保護する方であるが、今一日勤勞にある母にかわりてその家庭を託兒所に委員の手で見守られたならば母の負擔を輕くすることが出來健康な身心をもつて勤勞すれば潑剌たる母の會が育つのであるから母性補導委員と母の會は今後聯絡して行きたいと思ふ。現在の託兒所の形をこしらへたといはれる經濟學者佐藤信淵は國民の生活を豐かにし國民生活を安定せしむるところのものは勤勞である、業に於て樂しんで仕事をすることにならなくば生活は向上し安定しない發奮して業をなせばその業は進み生活は樂しくなり生活が安定する。之が經濟の根本であるといふ意味のことを云つてゐる、即ちそこに高き人間生活の展望をもち得ることになると人生は向上し勤勞する母の生活が光榮ある國民の名譽を自覺し最高の水準を母の手によつて創り出すのである、此の母に育てらるゝ國民こそ次の日本を建設する逞ましき國民であることを信じて結語とする。

東京市選定　働く母の歌　尾崎喜八作

一、御稜威に　輝く　世には　會ひて　母てふ　幸いよ
　　よ　新た　我子を　抱きて　朝を　立てば　よろこび
　　いづみ來　今朝の　心

二、黄金も　眞珠も　なにか　せむと　いにしへ　びとら
　　の　歌の　まこと　鬪ふ　此の日の　胸に　彫りて

三、御寶　護らむ　晴の　つとめ
　　眞幸く　育てる　汝の　ありて　働く　場にも　母は
　　たのし　榮ゆく　皇國の　大き　運命　共にぞ　擔は
　　め　美し　わが子

雜誌が大變うすくなりました。御存知のことと存じますが用紙の大削減が斷行されてゐるからです。併し戰時下一層内容の充實につとめたいと思つてゐます、

（編　輯　部）